

## 西播磨圏域（兵庫県） 総合水産基盤整備事業計画

### 1. 圏域の概要

#### (1) 水産業の概要

##### ①圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

本圏域は、播磨灘北西部に位置し、沿海には姫路市、たつの市、相生市、赤穂市の4市が位置している。漁協は、平成20年には15漁協であったが、合併への取組が進められた結果、現在は、姫路市に3漁協、たつの市に2漁協、相生市及び赤穂市に各1漁協で7漁協となっている。

##### ②主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

本圏域では小型底びき網、機船船びき網、まき網漁業など多種多様な漁船漁業と、ノリ、ワカメ及びカキの養殖業が営まれており、令和元年の漁船漁業の生産量は5,988トン、養殖業の生産量は17,122トンである。

#### 【主要漁業種類の漁獲量】 (単位：t)

	H26 (ノリ養殖:H25 漁期)	R1
小型底びき網漁業	2,379	1,149
機船船びき網漁業	5,750	2,888
まき網漁業	6,159	1,324
その他漁業	1,008	357
漁船漁業計	15,296	5,988
養殖業※	14,785	17,122

出典 H26は、漁船漁業：兵庫県水産業の動き ノリ養殖：共販資料 ※37.5kg/千枚で換算  
R1は、漁港の港勢調査属地陸揚量と港湾の該当漁協報告書水揚量の合計

#### 【主要魚種の漁獲量】 (単位：t)

	H26	R1
シラス	707	2,120
イカナゴ	4,888	476
スズキ類	412	118
タコ類	155	66
アジ類	933	363
カレイ類	330	192
タイ類	161	173
養殖ノリ	7,259	10,067
養殖カキ	7,522	7,053

出典 H26は、漁船漁業：兵庫県水産業の動き

R1は、漁港の港勢調査属地陸揚量と港湾の該当漁協報告書水揚量(不明分は未計上)の合計

本県漁船漁業の漁獲量 (R1 年) は 40,912 トン (農林水産統計)、養殖生産量 (R1 年) は 64,585 トン (農林水産統計) であり、本圏域のシェアは漁船漁業：14.6%、養殖：26.5% である。また R1 年統計値において本県は、シラスが全国 1 位、クロダイ、スズキ類、タコ類、養殖ノリが全国 2 位、養殖カキが全国第 4 位の生産量を誇っているが、本圏域の県内シェアはシラス：14.6%、イカナゴ：46.4%、スズキ類：24.7%、タコ類：5.1%、養殖ノリ 19.0%、養殖カキ 95.8% となっている。

#### <近年の資源動向>

##### ・機船船びき網漁業漁獲対象種 (シラス・イカナゴ)

シラスは瀬戸内海における再生産と、春期に太平洋から来遊するシラスによって形成され、年変動が大きい、近年の資源動向は横ばいである。また、イカナゴは明石海峡周辺及び備讃瀬戸の再生産によって形成され、シラスと同様に年変動が大きい、近年、栄養塩濃度の低下等により資源動向は減少が著しく、生産量はごく少なくなった。

##### ・まき網漁業漁獲対象種 (カタクチイワシ・アジ類・サバ類)

カタクチイワシ瀬戸内海系群及びマアジ・マサバ太平洋系群が主な漁獲対象であり、瀬戸内海における再生産と太平洋から索餌来遊する系群によって形成され、年変動が大きい、近年の資源動向は横ばいである。

##### ・機船船びき網、まき網漁業以外の漁獲対象種 (スズキ類、カレイ類、タコ類等)

マダイについては種苗放流等の効果もあいまって高位を保っている。ヒラメは種苗放流を実施しているが増減しながら横ばいで推移している。その他の魚種について、サワラの資源量は増加傾向であるものの、主な漁業種類である小型底びき網、刺網、釣り漁業の近年の漁獲量が減少傾向で推移していることから、これらの漁業によって漁獲される魚種の資源動向についても多くが減少傾向であると類推される。

(参考)

小型底びき網漁業の主要漁獲対象種：マダイ、ヒラメ、カレイ類、甲殻類、タコ類

刺網漁業の主要漁獲対象種：スズキ類、カレイ類、マダイ、タコ類、イカ類

釣り漁業の主要漁獲対象種：マダイ、アジ類、タチウオ

#### <資源管理措置>

##### ・機船船びき網漁業

イカナゴ漁期は毎週日曜を、シラス漁期は毎週水、日曜を休漁日とする資源管理計画を策定している。また、網下ろし・網揚げ日を統一し、漁獲動向に応じて休出漁を決定している。なお、イカナゴについては翌年度の資源量を確保するため、研究機関の調査結果に基づいた網揚げ日の決定を行っている。

##### ・機船船びき網漁業以外

本圏域内の小型底びき網、刺網、小型定置網、中型まき網漁業について漁協単位で資源回復計画が策定されている。

【西播磨圏域内で策定されている資源管理計画】

漁業種類	漁協名	主な資源管理措置
小型底びき網	坊勢、家島、室津、岩見	休漁日の設定、小型魚の再放流
刺網漁業	坊勢、家島	休漁日の設定
小型定置	坊勢、家島	休漁日の設定
中型まき網	坊勢	休漁日の設定

<つくり育てる漁業の取組み>

ヒラメ、マコガレイ、オニオコゼ、カサゴ、メバル、クマエビ、ガザミ、クロアワビ、サザエ、マナマコの間育成及び放流を実施する。

(※ガザミ、クロアワビ、サザエ、マナマコは直放)

また、アサリ種苗が生産され、垂下式による兵庫県産アサリの養殖が行われている。

③水産物の流通・加工の状況

・機船船びき網漁業漁獲対象種（シラス・イカナゴ）

シラスは主に本圏域内の加工場に出荷され、釜揚げやシラス干しに加工後、卸売市場を經由して広く京阪神地域に流通している。イカナゴ新仔は釘煮材料として、播磨地域の小売店に鮮魚で流通するものと、シラスと同様に圏域内の加工場に出荷され、釘煮や釜揚げに加工後、京阪神地域に流通するものがある。

・機船船びき網漁業以外の漁獲対象種

機船船びき網漁業以外の漁獲対象種は、概ね以下の流通形態となっている。

- i) 妻鹿漁港、岩見漁港、室津漁港、姫路港（網干）に所在する産地市場→圏域内及び近郊の小売店等
- ii) 坊勢漁協、離島の仲買人に出荷→圏域内及び近郊の小売店等
- iii) i、iiの産地市場等→卸売市場→京阪神及び関東の小売店等
- iv) 各地市場（神戸市～岡山県間の沿海市町に所在する産地市場、卸売市場）に漁業者が直接搬入→京阪神、中部、関東地域の小売店等

なお、タコ類については、一部兵庫県漁連が浜値維持のため買受人となり、妻鹿漁港に所在する加工流通センターで加工後、広く京阪神地域に流通するものがある。

④養殖業の状況

・ノリ養殖業

陸揚されたノリは、漁業者自らが乾ノリ（板ノリ）に加工し、ほぼ全てが兵庫県漁連の共販にかけられ、商社を経て主にコンビニエンスストアのおにぎり用などの業務用として全国に流通している。

圏域内漁港・港湾における令和元年ノリ養殖業陸揚量（トン）	
妻鹿	39 トン
姫路港	39 トン
家島	3,064 トン
坊勢	6,857 トン
岩見	2 トン
赤穂港	66 トン
合計	10,067 トン

・カキ養殖業

陸揚されたカキは、一部が直販で流通し、残りは漁業者自らがむき身に加工し、パッカーに出荷後、全国に流通している。

圏域内漁港・港湾における令和元年カキ養殖業陸揚量（トン）	
坊勢	677 トン
岩見	51 トン
室津	2,367 トン
相生港	1,833 トン
赤穂港	468 トン
合計	5,396 トン

⑤漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

出典 経営体数：漁業センサス 組合員数：圏域内漁協業務報告書

	経営体数		漁業就業者数		
	H25	H30		H25	H30
個人	539 体	499 体	男	986 人	1,020 人
団体	83 体	99 体	うち 65 歳以上准	250 人	264 人
計	622 体	598 体	計	1,007 人	1,062 人

出典：漁業センサス

本圏域内の漁業経営体数は減少が継続しているが、その中で団体経営体数は増加に転じている。漁業就業者数は、平成 25 年まで減少傾向にあったが、最近 5 ケ年では増加に転じ、若い就業者の加入がみられる。魚価の低迷や燃油の高騰など水産業

を取り巻く情勢は厳しいが、漁業の担い手が安定して確保されることが期待される。

#### ⑥水産業の発展のための取り組み

本圏域では、妻鹿漁港を活用した直販活動（日曜昼市の開催やレストランを併設した漁協直販所の開設など）を積極的に行っており、認知度の高まりから盛況となっている。

また、室津漁港では、漁協女性部が中心となって鮮魚介類や惣菜等加工品を直販する「魚魚市（とといち）」が漁協事業により行われているほか、圏域内各地で「カキ祭り」が開催され、地域の冬季のイベントとして定着し人気となっている。

#### ⑦水産基盤整備に関する課題

本圏域の各漁港では一定水準の整備が概ね完了し、今後は既存施設の適正な維持管理が重要となる。また、地震・津波発生時の被害軽減と漁業活動の早期再開を図るため、既存の防波堤や岸壁等の機能強化が必要である。

漁場においては、本圏域は本県瀬戸内海域における生産拠点となっているが、海域の大半は生産性に乏しい単調な砂泥域であり、近年は栄養塩不足等による海域環境の悪化が加わり、海域の生産力の低下が顕著になっている。そのため、島嶼部周辺のごく沿岸の限られた好漁場に漁船が集中し、漁獲圧力の集中や操業の安全が危惧されている状況にある。

#### ⑧将来的な漁港機能の集約化

本圏域内の漁港において漁船数は減少しているものの、漁船の岸壁利用状況の見直し等により充足率は上昇している。今後も充足率は横ばいまたは上昇傾向にあると予測され、係留施設を新たに整備する必要性は低い状況にある。

漁港内の余剰水域、用地の需要を見据え、漁港機能の集約化も含め活用方法を検討していく。

本圏域における係留施設利用（港勢を基に算出）			
	H22	R1	R22-R1
利用漁船数	2,232 隻	1,725 隻	507 隻減
充足率※	43%	51%	8%増

※充足率（%）＝（所要延長－不足延長）/所要延長×100

不足延長＝所要延長－現有延長

所要延長：利用漁船が陸揚・準備・休けい目的に必要なとする係留施設の延長

現有延長：漁港が現在保有している係留施設の延長

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由；水産物を集約する産地市場を有している。
② 圏域範囲	兵庫県姫路市以西の本土及び家島諸島	設定理由；離島地区と連携した漁獲物の流通形態が確立されている。
③ 流通拠点漁港	妻鹿漁港	設定理由；妻鹿漁港は本圏域の流通拠点として、圏域内の各漁港から漁獲物を集約する中核的な役割を担っている。
④ 生産拠点漁港	室津漁港 家島漁港 坊勢漁港 岩見漁港	設定理由；陸揚金額、陸揚量が生産拠点の要件を満たしている。 室津漁港は養殖カキの生産、供給の拠点として中核的な役割を担っている。 岩見漁港においても養殖カキの生産、供給の拠点としての機能を有している。 家島漁港、坊勢漁港は船びき網漁業等の漁獲物を主に妻鹿漁港へ供給、及びノリ養殖業の生産・供給の拠点として中核的な役割を担っている。
⑤ 流通・輸出拠点漁港	該当なし	—

(令和元年)

圏域の属地陸揚量	23,109 トン
圏域の総漁港数	7 漁港 6 港湾
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	4 港湾

圏域の登録漁船隻数	1,528 隻
圏域内での輸出取扱量	—

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	西播磨ノリ養殖地区	兵庫県カキ養殖地域
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ノリ	カキ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種（収穫量）（トン）	10,067 トン	5,396 トン

## 2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

本圏域の流通拠点漁港である妻鹿漁港では、シラス・イカナゴの出荷作業を効率化し、高鮮度出荷を行い価格形成力の向上を図る必要がある。

しかし、既設の浮棧橋が老朽化している事に加え、高齢化する漁業者の作業軽労化を図るべく新たに公共施設としての浮棧橋整備を推進していく。

また、高鮮度出荷の取り組みにおいて速やかに出荷が可能となるよう ICT（情報通信技術）を活用した電子入札を検討する。

さらに、当漁港では直販活動（漁港区域内での直販所の開設や直販イベント）が盛んに行われており、付加価値の向上に努めている。今後も既存施設を有効活用し取組を推進していく。

衛生管理においては、主要な水産物に関して、高度な衛生管理対策（衛生管理基準レベル2）の基準を満たした水産物を出荷している。今後は、衛生管理に対する総合的管理体制を確立（衛生管理基準レベル3）に向けて取組を推進していく。

生産拠点漁港である室津漁港では鮮魚介類や惣菜など加工品を直販する「魚魚市（とといち）」が漁協事業として行われ、同じく漁港区域内で整備されたカキ剥き加工場を利用した直販が盛んであり、付加価値向上の取組に漁港施設が有効に活用されている。

家島漁港では、船舶航行および、定期船の運航における安全性向上に向けた防波堤及び岸壁の改良を推進していく。

その他の漁港においても水産物の安定的な生産体制を確保するため、安定した漁業活動が可能となるような漁港整備を推進し、生産コストの縮減を図る。

#### ② 養殖生産拠点の形成

##### <西播磨ノリ養殖地区>

本圏域では、ノリ養殖業が盛んで播磨地域の生産地として拠点を形成している。

海中の栄養塩の低下等による色落ちが生じており、生産量が安定していない。また、ノリの価格が全国の生産動向とノリ商社の在庫状況による大きく変動するため、生産量、価格とも不安定な状況となっている。

この状況を解消するため、新品種の導入を行い良質ノリの生産を行うことや、小型底びき網漁業者、機船船びき網漁業者の協力のもと、海底の栄養塩溶出のための海底耕うんや栄養塩添加等を実施することにより収入の安定化を図る。

### <兵庫県カキ養殖地域>

カキ養殖業は冬場の副業で営まれていたが、この水域のカキの生育が良く、品質が良いものが出荷でき、収益性が良いことから、漁獲量の減少に伴いカキ養殖をメインにする漁業者が増えてきた結果、養殖地域を形成することになった。

カキ養殖については、比較的后継者が多く地域における基幹産業になっているものの、養殖用種苗は他県に依存しており、近年は種苗確保が不安定な状況となっており、安定した生産量の確保が課題となっている。

## (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

### ① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

本圏域は本県瀬戸内海域における生産拠点となっているが、海域の大半は生産性に乏しい単調な砂泥域であり、近年は栄養塩不足等による海域環境の悪化が加わり、海域の生産力の低下が顕著になっている。そのため、島嶼部周辺のごく沿岸の限られた好漁場に漁船が集中し、漁獲圧力の集中や操業の安全が危惧されている状況にある。

このことから、背後の姫路市周辺、及び阪神地域に水産物を安定して供給する生産拠点としての機能を維持するため、3県（岡山県、香川県、兵庫県）で取り組む「播磨灘水産環境整備マスタープラン」に基づき、水産生物の生活史に配慮した広域的な水産環境の整備として、石材礁による大規模な増殖場造成を実施するとともに、環境変化による魚種変化に対応した漁場整備を実施し、漁獲量の維持増大及び水産物の安定供給を図る。

さらに、栄養塩管理と連携した水産多面的機能発揮対策による海底耕うん等の浅場の保全活動等を実施し、海域の生産力向上を図る。

なお、漁場環境観測システム等を活用して水温、塩分、栄養塩類等をモニタリングし、海域の環境変化等を的確に把握するとともに、関係者への情報発信を図る。

### ② 災害リスクへの対応力強化

東南海・南海同時地震や南海トラフ巨大地震による地震動ならびに津波来襲に備え、漁業地域の安全対策を図り、被災しても地域水産業が早期回復できるよう地震・津波対策に取り組む。

本圏域の流通拠点漁港である妻鹿漁港は、圏域内の各漁港から漁獲物を集約する中核的な役割を担っており、生産拠点漁港である家島漁港、坊勢漁港は漁獲物を主に妻鹿漁港へ供給する中核的な役割を担っている。また、生産拠点漁港である室津漁港は養殖カキの生産拠点として中核的な役割を担っている。これらの漁港は圏域における漁業活動の基盤として果たす役割は大きく、漁港施設の老朽化対策がますます重要な課題となる。



### (3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

#### ① 「海業」による漁村の活性化

本圏域は四季折々に様々な水産物が水揚げされ、大半の漁業者は海面漁業、海面養殖業の両方を多角的に営んでいる。しかしながら、魚価の低迷や水産資源の減少、漁業者の高齢化による後継者不足に加え、燃油価格の高騰等漁業コストが増大しており、経営が厳しい状況である。

浜プランにおいて、カキ養殖の振興、魚価の向上、水産物の加工品製造による付加価値の向上に取り組むこととしており、PR 活動や近隣の学校への水産物の提供及び出前授業の実施等、魚食普及による消費拡大により「海業」による地域の活性化を図る。加えて、漁船や漁業見学船を活用した「漁業体験プログラム」を開発・実施して漁村の魅力を発信するとともに、都市部との交流人口を増やし、地元産魚介類の消費拡大と単価の向上による漁業収入の向上を図る。

#### ② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地域の水産業を支える多様な担い手が活躍できるよう、漁業研修を充実し健全な漁業経営と資源管理を行うことができる漁業後継者の育成を図る。

### 3. 目標達成のための具体的な施策

#### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

##### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
家島	流通機能強化	水産生産基盤整備事業	家島漁港	2種	
坊勢	流通機能強化	水産生産基盤整備事業	坊勢漁港	2種	
県営本土	流通機能強化	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	妻鹿漁港	2種	○
県営本土	流通機能強化	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	家島漁港	2種	
県営本土	流通機能強化	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	室津漁港	2種	
坊勢	流通機能強化	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	坊勢漁港	2種	
岩見	流通機能強化	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	岩見漁港	1種	

家島、坊勢漁港において水産生産基盤整備事業により静穏度対策や係留施設不足等に対応し、流通機能強化を行う。機能増進事業を活用し、小規模な対策による流通基盤強化を行う。

##### ② 養殖生産拠点の形成

補助事業等の活用を検討し対策を行う。

#### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

##### ① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
播磨灘	資源管理	水産環境整備事業
播磨灘第2	資源管理	水産環境整備事業
家島第2	環境変化	漁村再生交付金
家島第3	環境変化	漁村再生交付金
姫路市、たつの市、赤穂市	環境改善	水産多面的機能発揮対策

水産生物の生活史に配慮した広域的な水産環境整備として砂泥域に天然の岩礁瀬に匹敵する大規模な石材礁による増殖場を造成するとともに、漁獲対象種の変化に対応した沈設魚礁を設置し、海域の生産力向上を図る。

また、栄養塩管理と連携し、水産多面的機能発揮対策による浅場の海底耕うん等の保全活動等により、海域の生産力向上を図る。

## ②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
県営本土	予防保全	水産物供給基盤保全事業	妻鹿漁港	2種	○
県営本土	予防保全	水産物供給基盤保全事業	家島漁港	2種	
県営本土	予防保全	水産物供給基盤保全事業	室津漁港	2種	
坊勢	予防保全	水産物供給基盤保全事業	坊勢漁港	2種	
岩見	予防保全	水産物供給基盤保全事業	岩見漁港	1種	
県営本土	予防保全	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	妻鹿漁港	2種	○
県営本土	予防保全	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	家島漁港	2種	
県営本土	予防保全	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	室津漁港	2種	
坊勢	予防保全	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	坊勢漁港	2種	
岩見	予防保全	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	岩見漁港	1種	

機能保全計画に基づき、水産物供給基盤保全事業、漁港機能増進事業を活用し、計画的に老朽化対策を行う事で災害リスクへの対応を図る。

### (3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

#### ①「海業」による漁村の活性化

農林漁業者と食品産業、商工業、医療、福祉、観光など様々な分野の事業者、大学などの研究者が交流・連携し県産農林水産物を活用した新たな商品、サービスの開発や独創的な活動を支援する「農イノベーションひょうご」に参画し、異業種との交流に取り組み、水産物を通じて漁村の活性化を図る。

その他、補助事業等による漁業者への支援を行い、「海業」による地域の活性化を図る。

#### ②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
妻鹿	就労環境	水産流通基盤整備事業	妻鹿漁港	2種	○
坊勢	生活環境	漁村整備事業	坊勢漁港	2種	

漁業の担い手の生活基盤として、漁村整備事業により漁業集落排水施設整備を行うことで、居住環境を整え、漁業者の定住化を図り担い手を確保する。

幅広い視野を持った将来の水産業界をリードしていく人材育成を行うことを目的に若手漁業者や漁協・系統団体職員を対象として、漁村地域の指導者にふさわしい人材を育成する教育機関として、平成 17 (2005) 年に兵庫県漁業協同組合連合会及び兵庫県水産漁港課が主体となり設立された「大輪田塾」の活用や研修等の開催により、水産業の中核的担い手を養成する。

また、妻鹿漁港では漁業者の高齢化に対応すべく、作業軽労化を図る浮棧橋整備を推進する。

#### 4. 環境への配慮事項

本圏域は、大部分が瀬戸内海国立公園の西播磨地域に位置しており、自然環境に恵まれている。なお、姫路市本土側は大都市域を背後に控えるとともに、海面埋立てによる土地造成等、開発が進行した環境下にあるが、少ないながらも半自然海岸が残されていることや瀬戸内海国立公園に隣接する等、現状環境の維持に努める必要がある。

本計画内ではこれを悪化させるような施設整備は計画されていないが、将来にわたりこの環境が維持されるように努める。

#### 5. 水産物流通圏域図

別添のとおり

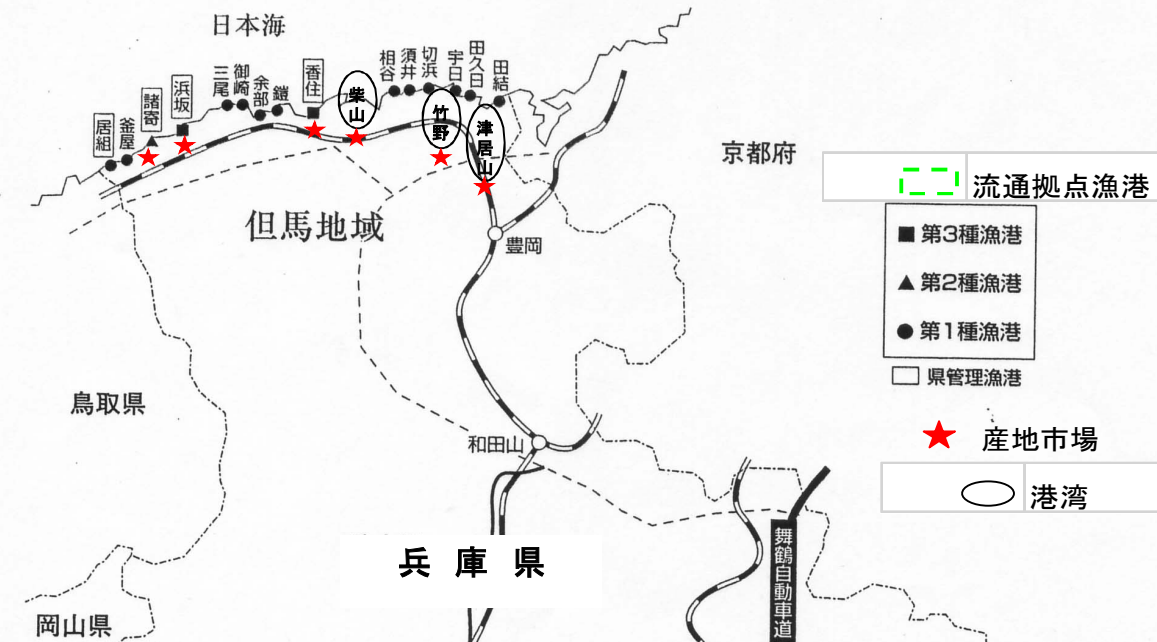
#### 6. 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図

別添のとおり

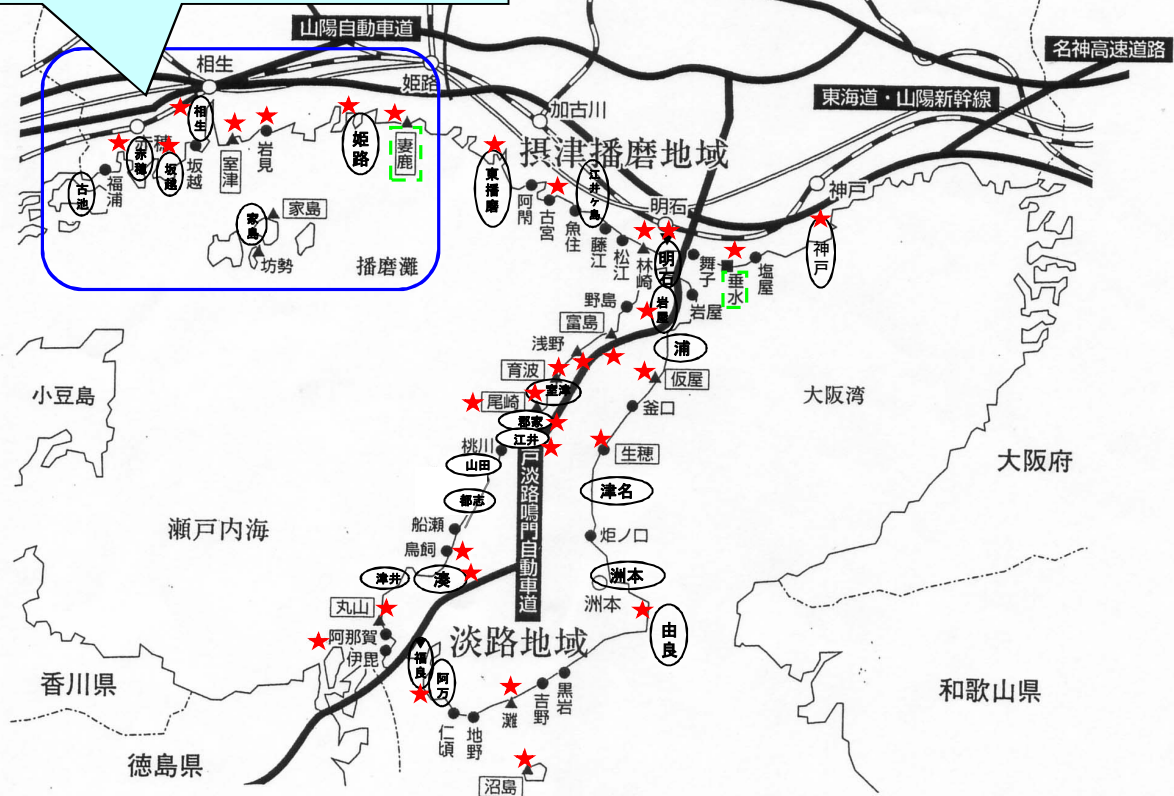
#### 7. 漁港ごとの役割や機能分担及び漁港間での連携の状況を示す資料

別添のとおり

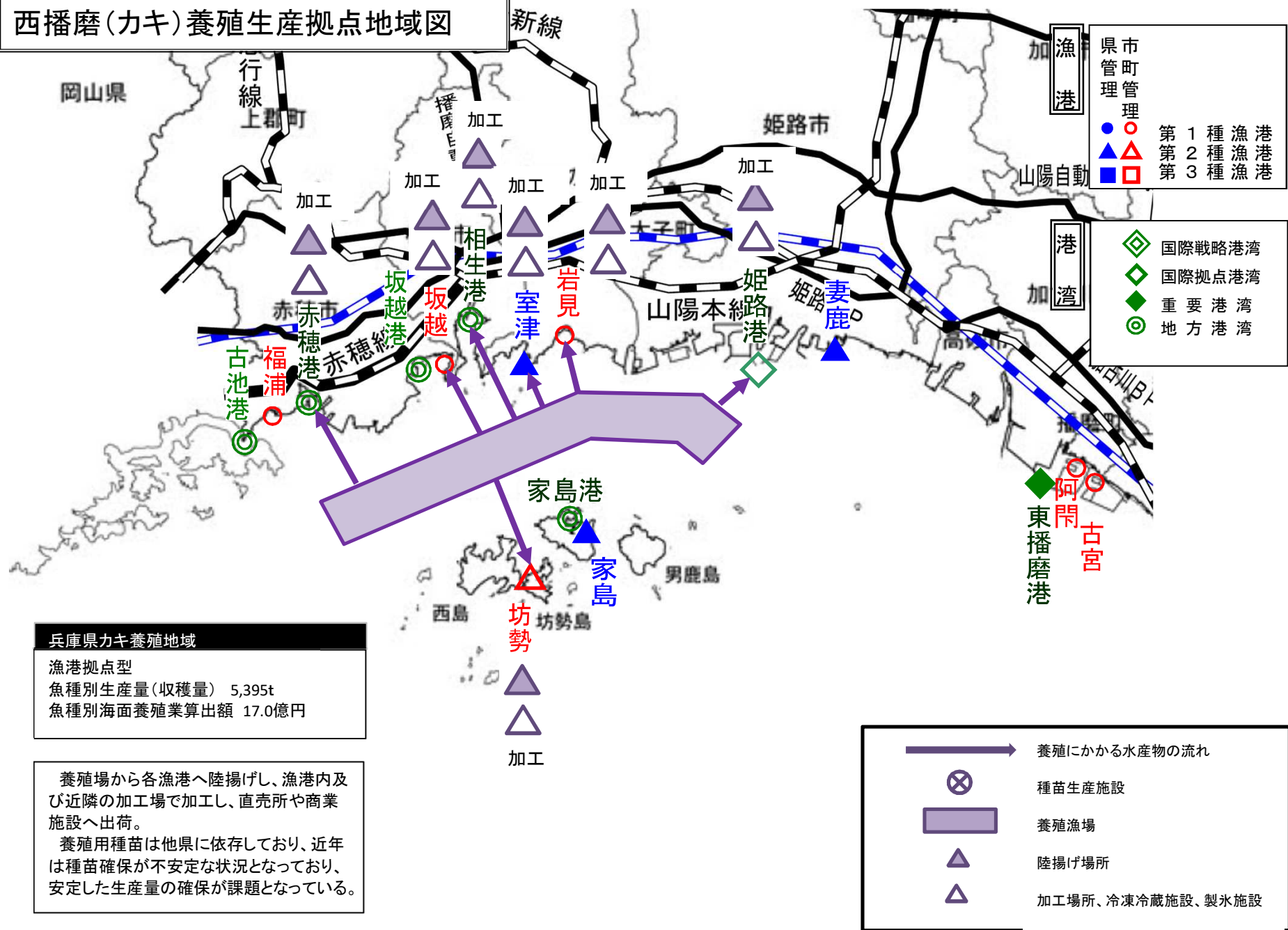
# 兵庫県水産物流通圏域図



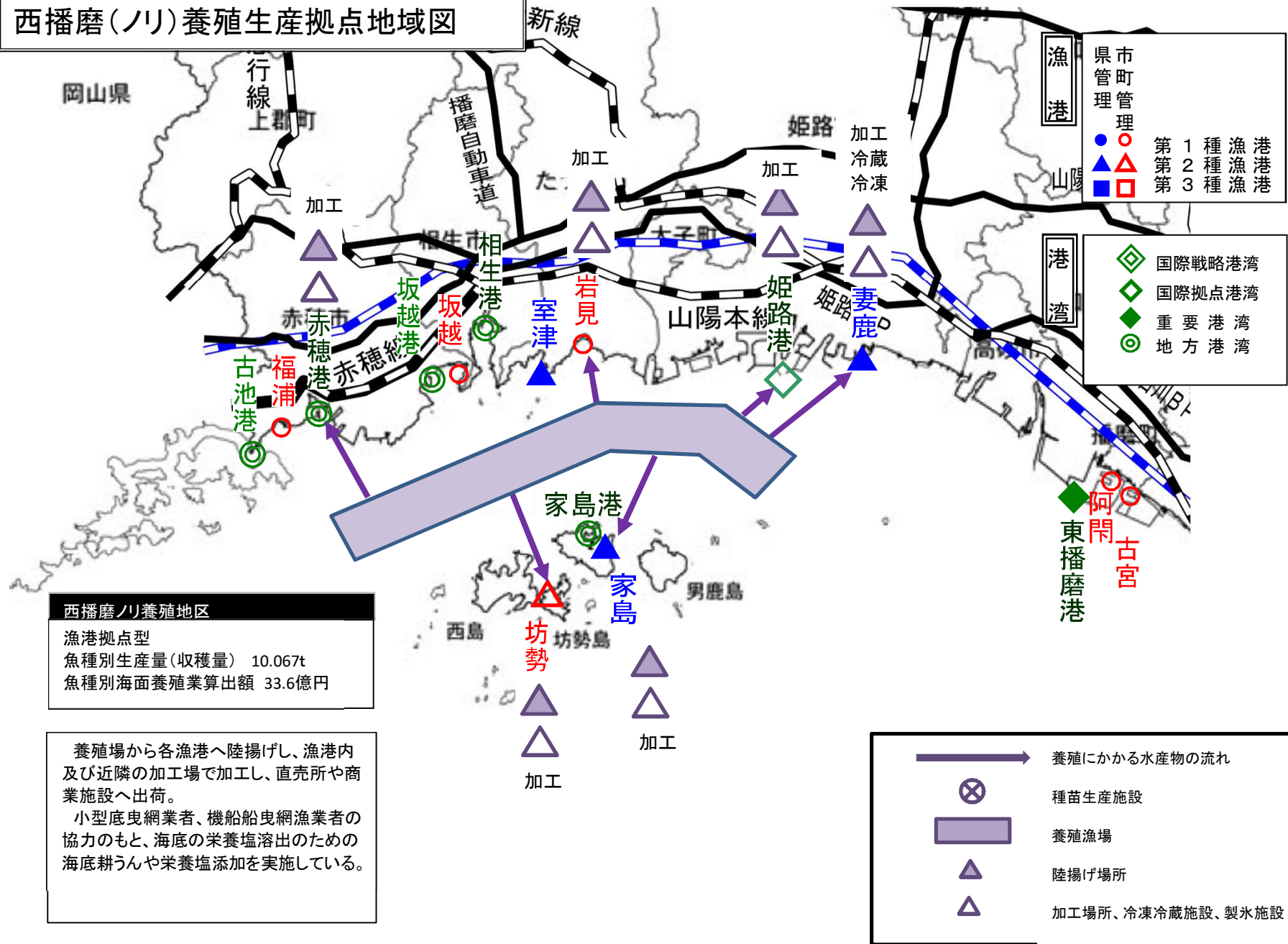
**西播磨圏域 流通拠点(一般)型**  
 流通拠点漁港: 妻鹿漁港  
 生産拠点漁港: 家島漁港、坊勢漁港、岩見漁港、室津漁港  
 圏域総陸揚量: 21,385t  
 圏域総陸揚金額: 90.0億円  
 漁港7港 港湾6港



# 西播磨(力キ)養殖生産拠点地域図



# 西播磨(ノリ)養殖生産拠点地域図



**西播磨ノリ養殖地区**  
 漁港拠点型  
 魚種別生産量(収穫量) 10.067t  
 魚種別海面養殖業算出額 33.6億円

養殖場から各漁港へ陸揚げし、漁港内及び近隣の加工場で加工し、直売所や商業施設へ出荷。  
 小型底曳網業者、機船船曳網漁業者の協力のもと、海底の栄養塩溶出のための海底耕うんや栄養塩添加を実施している。

**漁港**

●	市管理	○	第1種漁港
▲	町管理	△	第2種漁港
■	県管理	□	第3種漁港

**港湾**

◇	国際戦略港湾
◇	国際拠点港湾
◇	重要港湾
◎	地方港湾

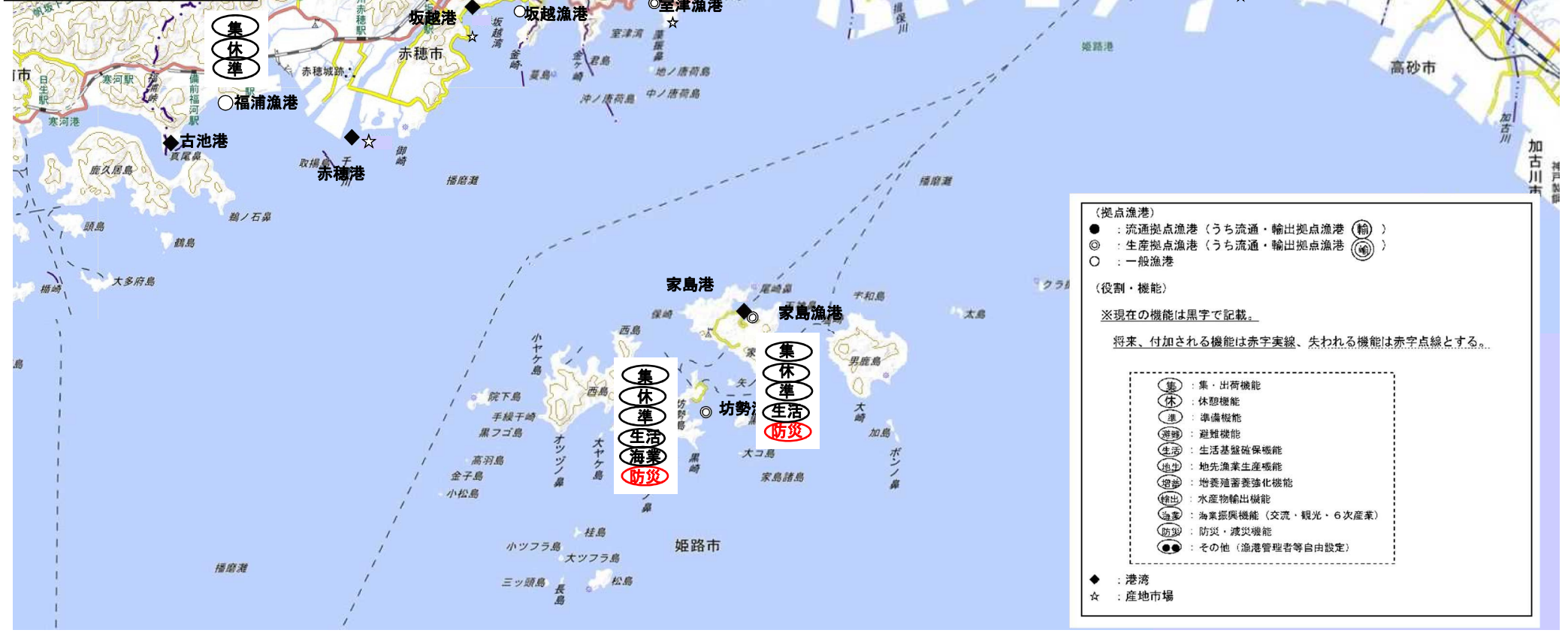
→	養殖にかかる水産物の流れ
⊗	種苗生産施設
■	養殖漁場
▲	陸揚げ場所
△	加工場所、冷凍冷蔵施設、製氷施設

兵庫県 西播磨圏域図 (機能の連携)

圏域総陸揚量：21,385 t

圏域総陸揚金額：90.0 億円

漁港：7 港 港湾6 港



(拠点漁港)

- : 流通拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輸))
- ◎ : 生産拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輸))
- : 一般漁港

(役割・機能)

※現在の機能は黒字で記載。  
 将来、付加される機能は赤字実線、失われる機能は赤字点線とする。

集	: 集・出荷機能
休	: 休憩機能
準	: 準備機能
避	: 避難機能
生活	: 生活基盤確保機能
地	: 地先漁業生産機能
増	: 増養殖蓄養強化機能
輸	: 水産物輸出機能
海	: 海業振興機能 (交流・観光・6次産業)
防	: 防災・減災機能
●●	: その他 (漁港管理者等自由設定)

◆ : 港湾  
 ☆ : 産地市場